

# 2011年夏 チャイナ本キャンプ報告書



2011年8月12日～9月1日

中国广西壮族自治区貴港市桂平旱冲

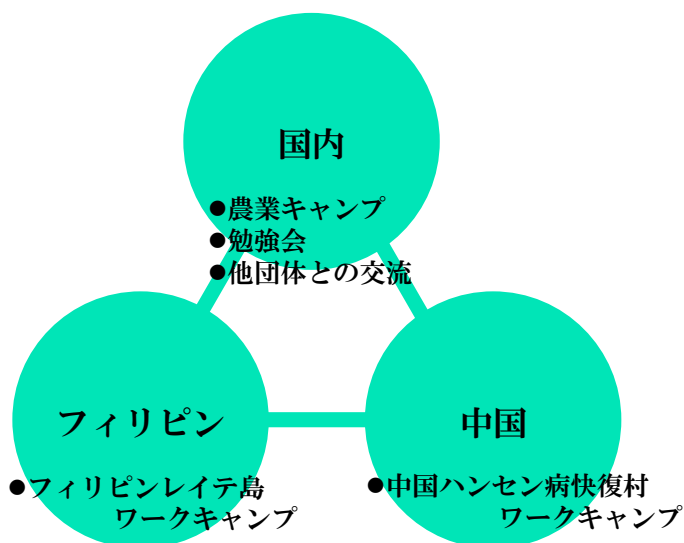
2011年 FIWC九州チャイナキャンプ発行

# 目次

・ FIWC 九州とは	・・・・・・・・	2—4
・ 日程、タイムスケジュール	・・・	5—6
・ 村について	・・・・・・・・	7—10
・ ワーク	・・・・・・・・	11—12
・ ケア、ハウスワーク	・・・・・・・・	13—14
・ エンターテイメント	・・・・・・・・	15
・ 保健	・・・・・・・・	16
・ カンファレンス	・・・・・・・・	17
・ 会計報告	・・・・・・・・	18
・ 反省	・・・・・・・・	19
・ キャンパー紹介	・・・・・・・・	20
・ 感想	・・・・・・・・	21—24



## 1. FIWC九州について



世界の問題を現地住民と一緒に解決に向けて取り組むこと、国内外を問わず世界の人々の相互理解の促進に努めることの2つを目的とした団体である。2005年春に行われたフィリピンキャンプを始めとして、現在では中国、国内を合わせた三つの地域を中心として活動を展開している。

### 【フィリピン】

現地NGO『NorWeLeDePAI』と地方政府の協力のもと、農村部貧困地域にてインフラ整備(水道や橋などの建設)を行っている。

### 【国内】

大分県耶馬溪での農業キャンプ、毎月開催する勉強会(FIWC Party)、他学生団体やNGO団体とのイベント開催や情報交換などの交流を行っている。

## 2. 中国キャンプについて

FIWC九州の中国キャンプでは、現地NGO『家-JIA-』の桂林地区の中国人学生と共にハンセン病快復村にて1~3週間程度のキャンプを行う。かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人たちは完治した今もなお、後遺症や周囲からの差別から、不便な生活を強いられているため、私たちは村人や中国人学生と共同生活をしながら、次のことを行う。

- ◆ ワーク…トイレ建設や水道設備設置などの村のインフラ整備
- ◆ ハウスワーク…後遺症のため困難となった、食事や洗濯などの日常生活の補助
- ◆ イベント…村人と楽しい時間を共有するためのパーティーの開催

ワークだけでなく、村人との交流をはかり、心から楽しいと感じてもらえる時間をつくることもこれらの活動を行う重要な意義である。

### 3. FIWC 九州中国キャンプの経歴

2005 年春、夏：広西省ピンシャン村

2006 年春、夏：広西省ジャーピン村

2007 年春、夏：広西省ハンチョン村（夏のみジャーピン村との同時開催）

2008 年春、夏：湖南省ロンフオイ村

2009 年春、夏：湖南省シンニン村

2010 年 春：湖南省シンニン村 夏：ロンフオイ村

2011 年春、夏：広西省ハンチョン村

### 4. JIA について

私たちが中国でワークキャンプを開催するに当たって、必要不可欠なのが JIA である。JIA ワークキャンプコーディネーションセンターは、2004 年 8 月に、ある日本人の若者によって中国の広州に設立された NGO である。中国各地にワークキャンプを根付かせ、それらと世界を繋ぐネットワークを築くことを目的に活動を展開してきた。

キャンパーはワークキャンプという手段を通して、ハンセン病に対する差別などの社会問題にも積極的に取り組んでいる。

### 5. ハンセン病について

ハンセン病はらい菌という細菌によって引き起こされる感染症の 1 種である。「らい菌」は、人間の体内に侵入すると主として皮膚及び末梢神経に増殖性炎症を引き起こす。それにより、知覚麻痺、運動神経障害、顔面・四肢等の変形、眼の障害などの症状が現れる。こういった外見からわかる症状により、ハンセン病患者は差別の対象となってきた。しかしらい菌は感染力が弱いため、私たちがらい菌に感染しても通常は発症することは無い。

1980 年以降、世界保健機構（WHO）は、ハンセン病蔓延国に向けたグローバルな対策として、多剤併用療法（MDT）を推奨している。MDT により、らい菌は数日で死滅し、早期に治療すれば後遺症を残さずに完治する。

## ～日本のハンセン病について～

日本では1930年頃から、ハンセン病患者たちを強制的に隔離していった。その根拠となったのが「らい予防法」であり、この法律は1996年まで存続した。予防法が廃止された後、国がこれによって行った強制収容、終身隔離、患者作業、断種などの人権侵害に対して謝罪を求める気運が高まり、「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟が起こされ、原告である元患者側が勝訴した。しかし予防法が廃止され、国の責任が明らかになった現在でも、隔離前に暮らしていた故郷に帰って生活できる人は少ない。元患者の平均年齢は今や約80歳となり、全国の療養所で暮らす入所者も年々減少している。

## ～中国のハンセン病について～

中国には、南部を中心に625にも及ぶハンセン病快復村がある。中国では日本の予防法に該当するような法律が存在したわけではなかったが、社会におけるハンセン病の理解も乏しく、また中国において有用な治療法が普及していなかった時代は隔離政策がとり得る唯一の政策だった。現在でもハンセン病患者に対する差別・偏見は根強く残っており、病が治癒しても社会復帰ができず、快復村内で暮らすことを余儀なくされている人は、中国全土で4万人にも上るといわれている。

彼らの生活は地方政府から支給される生活給付金に依存しているが、その額は地方により異なり、少額しか支給されない地域もある。今も倒壊寸前の家屋で、清潔な水を供給する設備やトイレ、電気すらない環境で野生活を余儀なくされ、後遺症に苦しみ、孤独に生活している高齢の村人が大勢いる。

中国キャンプでは、キャンプ中の緊密な協力関係、共同生活により、キャンパーと村人、キャンパー同士の間継続的な信頼関係が生まれる。ワークキャンプがもたらすこの人と人とのつながりが、ハンセン病快復村への偏見・差別の解消につながることを私たちは願っている。



## ● 日程

### 1、今回の日程

日にち	内容
8月12日	福岡空港出発、上海浦東空港を經由、上海虹橋空港到着
8月13日	上海虹橋空港出発、上海白雲空港到着、中国人キャンパーと落ち合う。 広州から貴港まで夜行列車で向かう。
8月14日	貴港に到着、残りのキャンパーと落ち合う。
8月15日	貴港出発、マンシー(市場)に到着。マンシーでキャンプ中必要な資材と食 材を買う。ハンチョン村に到着。
8月16～23日	キャンプ
8月24日	朝、ハンチョン村出発。南寧到着。
8月25～27日	南寧中心地からバスでカンファレンス会場のホテルへ。昼到着。 午後からカンファレンス開始。
8月28日	桂林到着。
8月29日	桂林キャンパーと桂林観光。夜のうちに広州に向け出発。
8月30日	広州到着。広州白雲空港出発、上海虹橋空港到着。ホテルへ向かう。
8月31日	上海観光、買い物。
9月1日	上海浦東空港出発、福岡空港到着。

### 2、所要時間

行き先	交通手段	所要時間
福岡空港—上海浦東空港	飛行機	1時間
上海浦東空港—上海虹橋空港	バス	1時間
上海虹橋空港—広州白雲空港	飛行機	3時間
広州白雲空港—広州火車站	地下鉄	45分
広州火車站—貴港駅	夜行列車	10時間
貴港駅—マンシー(市場)	バス	2時間
マンシー—村付近	トラック	40分
村付近—村	徒歩	30分

帰り

村ーバス停	徒歩	3時間
バス停ー貴港駅	バス	2時間
貴港駅ー南寧駅	列車	2時間
南寧駅ー桂林駅	列車	6時間
桂林ー広州火車站	夜行バス	7時間半



### 3、キャンプ中のタイムスケジュール

時間	内容	備考
6:40	起床	朝食係の人は 6:20 起床
7:00	朝の体操	
8:30	朝食	
9:00~12:00	ハウスワーク、ワーク	
12:00	昼食	昼食係の人は 10:30 にかまど前に集合
13:30	ダンスの練習(日本人のみ)	
14:00~15:00	休憩	
15:00~18:00	ハウスワーク、ワーク	
18:00	夕食	夕食係の人は 16:30 にかまど前に集合
18:00~20:30	自由時間(風呂など)	
20:30~21:00	日本人ミーティング	
21:00~	全体ミーティング	終わり次第、各自自由に過ごす(ゲーム、就寝等)



# ●村について

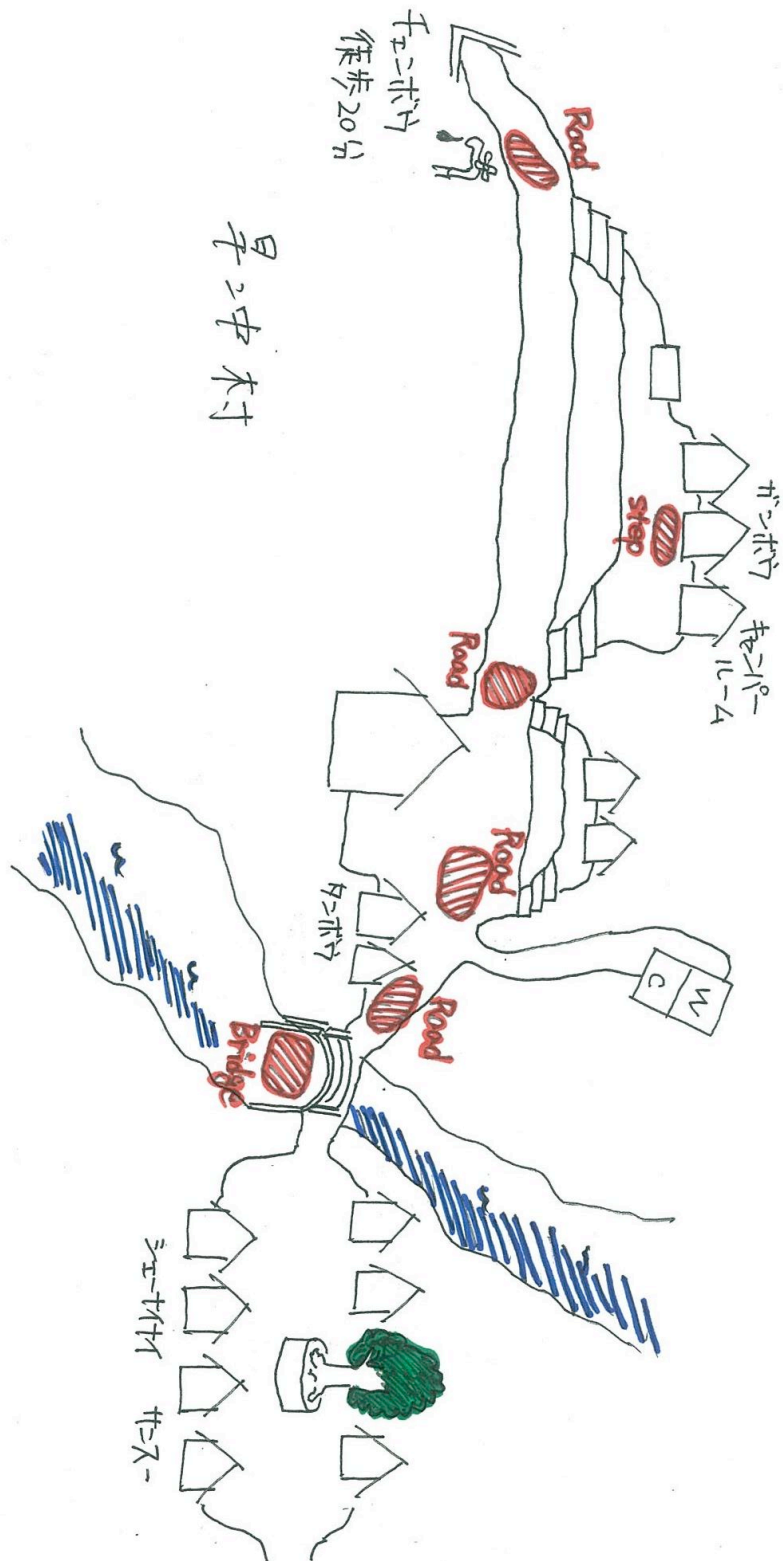
## 1、村の概要

村人	村人の数は5人。医者ではないが、医学の知識をもつ村人が2人いる。 全員比較的元気であるが、後遺症の度合いは人によって異なる。 村人の1人は、後遺症により自活が困難であるため、他の村人が身の回りの世話をしている。
インフラ	2007：トイレ、電気なし 2008：トイレができる、電気なし 2011：トイレあり、電気もソーラー電気が設置される 電波：村には電波が届かないが、村から徒歩30分離れた場所でようやく得ることができる。 水：1人は近くの水汲み場まで行くが、それ以外の村人の家の前には水道がある。
家屋	使われていない棟は半壊が多い。 現在使われている棟でも窓等が割れている場合があるが、致命的な状態ではない。
トイレ	男女別にある。
経済	何人かの村人は農業や養蜂を行い、自給自足の生活を送っている。
買い物	タンボウがバイクを持っているため、彼が近くの市場(マンシー)まで買い出しに行っている。
食事	皆個人で作っているが、シェーナイナイに関してはサンスーが作っている。
病院	徒歩10分程度のところに病院がある。今は使われていないが、備品などは揃っているようだ。
衛生面	洗濯などが日常的に行われている様子はなく、少し問題がある。
周辺地域	この村は特別離れたところにあるため、一番近い村でも徒歩で1時間弱かかる。 また、道が舗装されていないため、車やバイクではとても通りづらい。





## 2、村の地図



### 3、村人紹介



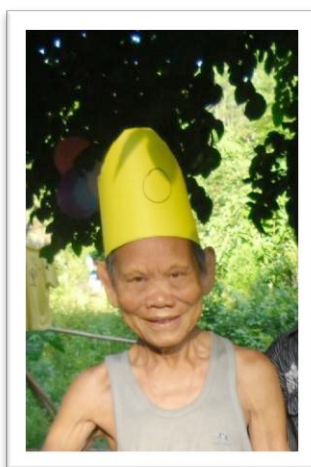
#### ガンボウ

タバコが好きで、パイプで吸うおじいちゃん。  
とっても力持ちで、薪割り・かまどの火の調節・料理など、何でもできてしまう頼りになる存在。キャンパールームの隣の部屋に住んでいるので、夜にキャンパー達と一緒にゲームやおしゃべりをしていることもありました。



#### タンボウ

優しい笑顔のおじいちゃん。  
タンボウの家はふと立ち寄りたくなる家で、よくふらっと入っては皆でチャイニーズチェスやトランプなどを一緒にして遊びました。私たち日本人キャンパーの名前も一生懸命覚えようとしてくれて感激でした。



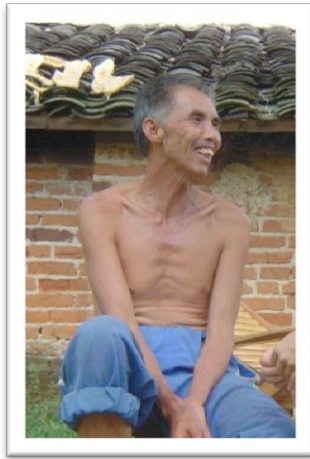
#### サンスー

小柄でかわいいおじいちゃん。  
料理が上手で、よく晩ご飯をご馳走してくれました。サンシュがくれた美味しいマンゴーの味も、忘れられません！  
隣に住むシェーナイナイの食事も作っていて、お世話をしています。



### シェーナイナイ

早冲村で唯一のおばあちゃん。  
手足が不自由で、松葉杖を使って歩きます。ナイナイの周りには  
ゆっくりした時間が流れていて、多くのキャンパーがナイナイの  
家の前でくつろいでいました。



### チェンボウ

1人だけ少し離れたところに住んでいる、シャイな性格のおじい  
ちゃん。  
猟が趣味で、猟銃や弾を見せてくれました。しかしとっても元気  
なおじいちゃんなので、家を訪ねに行ってもいけないこともしばし  
ば。



# ●ワーク

## 1、ワークの内容



### ①橋の修復

シェーナイナイとサンシュの家から、タンボウの家に行く途中の橋の修復。

木製の橋（長さ7m・幅1.3m）の足が腐っていて強度に不安があった。そのため、木製の足を増やし、釘で補強した。また歩く部分に穴があったため、木をはめた上に土を被せて平らにならした。

### ②道の舗装

厚さ0.06m・幅1mのコンクリートによる5カ所の道の舗装。

道が小石などで凸凹になっており、歩きにくかった。そのため、コンクリートで道を滑らかにし、歩きやすくした。

- 1：タンボウの家の前
- 2：タンボウの家とガンボウの家の間(2カ所)
- 3：手洗い場の前
- 4：橋の手前

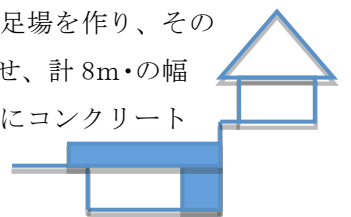


### ③溝の修理



ガンボウの家の前の溝に段を設ける作業。

ガンボウの家の前に溝があり高い段差を作っていたため、上り下りが困難だった。そのため、一つ段を増やし、二段階で降りられるようにした。石を積み上げて足場を作り、その上に40cm四方のコンクリートを20枚乗せ、計8mの幅の段を作った。入り口の前には、段の先にコンクリートの階段を作り、より上り下りやすくした。





#### ④水源カバー

水源に蓋が無く、雨や砂が入っていた。そのため、サンスーとガンボウの水源にカバーをつけた。

半径 25 cm の木製のふたを水源の上に設けた。サンスーの許可が下りなかったため、ガンボウの水源カバーのみ取り付けた。



#### ⑤追加ワーク



シェーナイナイとサンスーの家の水道修理。水道管が地面にむき出しになっており、破損する危険があった。そのため、土で埋めた。また、水道の蛇口が水漏れしていたため、パイプを付け替えた。

コンクリートや砂利などの材料は、三輪車を使い、チェンボウの倉庫から人力で運んだ。

## 2、ワークの進行

	橋の修復	道の舗装	溝の修理	水源カバー	追加ワーク
16日	木材カット		段作り		
17日	足作り				
18日	地面ならし	1つ目	足作り		
19日		2つ目		ガンボウ宅	
20日	free day				
21日		2~4つ目	段乗せ&階段		
22日		5つ目			水道管修理
23日	片付け				

16日、午後は雨が降ったため、午後のワークは早く切り上げた。

17日、午前中の材料運びで三輪車が壊れ、材料が運べなくなった。

18日、運んできていた材料が無くなった。

19日、道の舗装で巨大な石を掘り返すのに時間がかかり、予定がずれた。

20日、近くの村の人に材料を運ぶ馬を借りる交渉をしたが、値段が高くて断念した。代わりにタンボウが三輪車の部品を買ってきてくれた。

ハプニングはあったものの、皆の協力のおかげで、予定より早く作業が終わり、追加のワークもできた。

## ● ケア

ハンセン病の後遺症の 1 つに、足底を中心とした難治性の潰瘍が生まれるものがある。これは日々消毒等のケアを行う必要がある。今回キャンプを行ったハンチョン村でセルフケアが困難な村人は 1 名であった。この村人に対して 2 日 1 度、ケアを行った。

(普段はほかの村人が行っている) 内容としては消毒を行い、薬を塗布し、包帯を取り換えるといったもの。過去の例でもあるが、変形・傷口をあまり見られたくない村人もいた。今回の場合、中国人キャンパーがキャンプ期間外に定期的に訪問し、信頼できるつながりを築いていたため、ケアの活動を行うことができた。



## ● ハウスワーク

主とした活動は村人との会話。過去に隔離や差別・偏見を多く体験している村人が持つ心の傷は深い。中国キャンプでは労働ワークによる物理的支援、ケアによる身体的支援だけでなく、会話を中心とした日々の交流による精神的なケアが重要視されている。

ハウスワークでは当初予定している企画のほかに、普段の村人との会話の中で見えてくる新たなニーズに答えている。例えば、普段洗うことが困難な布団・衣類の洗濯、料理の補助、散髪など。これらの活動と、日ごろの会話がきっかけとなり、日に日に村人の笑顔が増えていったのが目に見えてわかった。村人との深いつながりを築くことが中国キャンプの大きな目的であり、ハウスワークはその村人とのつながりを深める大事なツールの 1 つであると考え。





## ●村人へのプレゼント

手作りのトランプ



↑過去に訪問したキャンパー達との写真が1枚1枚に印刷されている

Wishing Bottle



↑村人に対しての願いを紙に綴り、瓶の中に保存した

フォトアルバム



↑過去のキャンパーからのメッセージとフォトアルバム

燭台作り



↑日本人主体のワーク。村人の部屋を飾るものとなった

## ●エンターテイメント

エンターテイメントは、村人・日本人キャンパー・中国人キャンパーが打ち解けあう機会を提供する係である。最初は初対面で言葉もわからず交流が滞ることがあるため、提案した企画や遊びを行うことで、互いのコミュニケーションを促進する。

1. **遊び**：日本人キャンパーと中国人キャンパーが仲良くなるきっかけを作るために、いくつかの簡単なゲームをミーティング後に企画した。
2. **食前の歌**：毎食前に炊事係りに感謝の意を込めて、両国間の歌を歌った。お互いに歌詞やメロディーを教えあうことで交流する機会が増えた。また、一緒に同じ歌を歌うことで一体感が生まれた。
3. **朝の体操**：起床してから朝食までの時間に朝の体操をした。朝の体操をすることで、ケガの防止につながる。
4. **パーティー**：村人に喜んでもらうため、キャンパーで出し物を用意してパーティーを開催した。日本人キャンパーは日本独自のダンスを披露した。村人はパーティーの間、キャンパーに囲まれて幸せそうに笑っていた。多くの村人がパーティーに参加できるように、今回は場所を変えて2回パーティーを行った。

5. **日本食**：日本文化を知ってもらうために、日本食を作る機会を2回設けた。

1回目：カレーと味噌汁

2回目：肉じゃがとちらし寿司

デザートとして寒天を振る舞った。

感想としては、カレーと肉じゃが、寒天のウケは良かったように思う。ただ、味噌汁とちらし寿司は好き嫌いが人それぞれだったようだ。



# ●保健

## 1、症状及び対処

症状	対処	備考
体調不良 (頭痛、鼻水、体のだるさ)	ほとんどの場合は休憩しただけだったが、必要に応じて薬を服用した。	頭痛や鼻水、体のだるさといった症状はたびたびみられた。昼夜の気温差の大きい環境であり、加えてワークでの疲労や睡眠不足が重なったためだと考えられる
怪我 (釘が刺さる、擦り傷)	消毒	軽い擦り傷ができることは多かったが、大きな怪我はなかった。
虫刺され	蜂：薬を使わずに休憩 ムカデ：薬を塗布して休憩	蚊をはじめとして様々な虫に刺されることは多いため、対処を怠らないこと。
腹痛	薬を服用して休憩	おそらく疲労・ストレスが原因。あまり多くは起こらなかった。

## 2、まとめ

中国キャンパーたちも保健バッグを持っていたこともあり、薬が足りなくて困るということとはなかった。全体的に、風邪気味や体がだるいという症状が多かった。体調チェックは夜のミーティングのときにしか行わなかったが、日中にももっとキャンパーたちの体調に気遣うべきだったと反省している。



## ●カンファレンス

家 JIA 第 3 回代表委員会（カンファレンス）  
日時:2011 年 8 月 25 日(木)～8 月 27 日(土)  
場所：広西壮族自治区南寧市銀林山庄  
内容：JIA 会員代表総会  
JIA ワークキャンプ地区委員会報告など



↑会議風景

### 1、JIA・カンファレンスについて

JIA とは中国国内で活動する民間 NGO である。中国南部のいくつかの省にまたがり、JIA に属する団体、組織がワークキャンプを主催している。これら各地区委員会の代表が集まり、意見・経験の共有を行う会がカンファレンスである。この会を通して、JIA は今後の意思決定を行う。

### 2、内容

カンファレンスでは、JIA の今年度の活動の総括、今後の方針と各地区の活動報告やディスカッションを行う。今回参加したディスカッションのテーマは『日中ワークキャンプ共催における共通認識について』だった。また、空いた時間を使って各団体同士でミーティングを行うこともあった。キャンプ後すぐにほかのキャンプ地のメンバーたちと情報を共有することで互いを刺激し、今後のキャンプに対する意識の向上を目指している。カンファレンスでは他にも綱引き大会やパーティーなどの交流行事があり、キャンパーたちはこの場で仲を深める。

### 3、総括

↓ディスカッション

カンファレンスに参加して一番に思うのは、日本では得られないものを得ることができるということだ。例えば国を超えたディスカッションの中には、お互いに意外だと感じる意見があったと思うし、活動報告では日本にいたらきっと思いつかないアイデアがあった。そして何より、参加者たちの意識が高い。何か解決したいことがあれば、彼らは親身になって考えてくれる。キャンプの質を高めていくには、カンファレンスへの参加は必須であると考えている。





# ●会計報告

(1人あたり)

出発前(円)

●航空券

国際線(福岡—上海浦東)	49,275
国内線(上海虹橋—広州)	24,963

●その他

ビザ	3,000
保険	約5,000
村人へのお土産	416
キャンプ参加費	1,000

滞在中(元)

●交通費

キャンプ前

バス(浦東—虹橋)	30
電車(広州空港—広州駅)	12
電車(広州駅—貴港駅)	87

キャンプ後

電車(貴港駅—南寧駅)	29
バス(南寧—AGM)	5
電車(南寧駅—桂林駅)	65
深夜バス(桂林—広州)	160
電車(広州駅—広州空港)	12
タクシー(虹橋—ホテル)	16
電車(上海観光)	21

\*タクシーは3人ずつ2台に分かれて乗り、1台あたり48元かかりました。

●雑費

キャンプ前

SIMカード	17
写真	6

\*SIMカードは全体で100元です。

キャンプ後

上海観光(入場料)	30
-----------	----

●ホテル費

キャンプ後

南寧(1泊)	15
桂林(1泊)	10
上海(2泊)	138

●食費

キャンプ前	50
キャンプ後	34

\*上海での夕食代(2回)は各自で出して貰ったので+約70元(約910円)かかっています。

●参加費

キャンプ参加費	163(250-87)
AGM参加費	245

●合計(円)

出発前	83,654
滞在中	14,885
計	98,539

\*1元=約13円で計算



# ●反省(全体)

## 1、ワーク

事前の連絡等がうまくいっていなかったのもあり、ワークの内容が把握しきれず、ワークに対する積極性に欠けている部分があった。ハウスワークの方に精を出すのも一概に悪いとは言い切れないが、ワークは中国人キャンパーとの交流の場にもなることを考慮すると、やはり両方バランスよく参加すべきだった。また、ワークリーダーが率先して働いていたために指示を出す人がいなくなってしまったので、一歩引いて全体をみる必要があった。

## 2、ハウスワーク

個々人が自由に村人の家を訪問していたが、その結果、接する村人に偏りが生じてしまった。家が離れている村人がいることなどが要因として挙げられるかもしれないが、工夫次第では改善の余地があったように思う。「ワークキャンプ」として来ているのだから、1人1人がもっと自覚を持つべきであったし、キャンパー内でこの事態について考えを共有できる時間を設けるべきだった。また、言葉の通じない村人とのコミュニケーションに戸惑うキャンパーが多かった。この点に関しては、会話が難しい分、写真の持参や、言葉を必要としないゲームを考えておくなど出発前にもっと話し合っておく準備をしておく必要があったと思う。

## 3、生活面

全体的に中国人キャンパーに遠慮していた。中国人キャンパーが食事の準備等を率先してやってくれていたため、日本人キャンパーが入り込む余地が少なかった。より積極的に仕事を見つけ行っていくべきだった。また、これは日本人キャンパーに限ったことではないが、入浴時間等が遅くなってミーティングの開始時間が遅れることもしばしばあった。

今回は日程が詰まっただけで、日中両方のキャンパー同士が今後のワークキャンプについてなどの深い話をする時間がなく残念に感じた。常にワークやハウスワークを行っていなければいけないという意識が個人の中に奥深くあったのが原因だと思われる。

## 4、その他

日本との連絡手段についてだが、海外用の携帯電話では通話料金もかかるうえに今回はうまくつながらなかったため、個人の海外でも使える携帯電話でメールを用いて連絡した方が効率的であると思った。



## ★キャンパー紹介

### ●飯野美里(みしゃ：リーダー)

どことなく安心感があって頼りになる、私にとっては理想のリーダー像。力強いところも



あれば、かなり乙女な一面も(\*^\_^\*)でもリラックス状態の姿は……。とりあえず一度知れば愛さずにはいられない、そんな人です！(by さわ)

### ●姫野早和(さわ：KP&保健)

毎日の鶏の生存確認は怠らない大の鶏好き。毎夜のミーティングでの鶏の生存数の報告。

1匹消えたときの悲しそうな表情。



食材確認という名目のデザート。

彼女の Kitchen Police としての仕事っぷりは立派でした。(by たかし)

### ●栗原調(しらべ：ワークリーダー)

あだ名はしらべー先輩。笑顔がすっごく素敵！周りがよく見えていて、困っているとき



はすぐに気づいてくれる頼れるお姉さん。議論のときは冷静に論理を組み立てて、みんなの頭をすっきりさせてくれます！(by ぴっちゃん)

### ●高橋千秋(ぴっちゃん：エンタメ)

ぴっちゃんはとっても頑張り屋さんで、チャイナキャンプのムードメーカーって感じでした。



キャンプではその明るさで色んな人と仲良くなっていましたね。きっとぴっちゃんは親しみやすい日本人キャンパーNo.1 だったと思います！(by みしゃ)

### ●倉富隆(たかし：ハウスワークリーダー)

通称小隆。(隆兄？)

パーティーのダンスでは皆の視線が彼に集中。男女問わず中国人キャンパーからも絶大なる



人気を誇っていました。キャンプ経験者の少ない中、あらゆる面でみんなをリードしてくれた頼れる存在です☆(by ももこ)

### ●落石桃子(ももこ：会計&記録)

今回唯一の2年生キャンパー、桃ちゃん！

冷静沈着、マイペース☆



ミーティングで黙々と記録をとってくれるしっかり者。

中国では勧められたお酒にも果敢に挑みます。

ああ、なんと頼もしや……。 (by しらべ)

# ★感想

## 【みしや】

私は今回で3度目のキャンプ参加となり、リーダーとしては初めて臨む本キャンプとなりました。

本キャンプに参加する前、私には不安がありました。それは、今年のキャンパーの中にキャンプ経験者は一人しかいないこと、キャンプ前の連絡不足、私自身が中国語を話せず、交通機関等を良く知らないことからくる不安でした。初め、村に着いてすぐは、日本人キャンパーの戸惑いが分かり私は焦りました。日本人キャンパーは全員中国語が分からず、

村人が何を言っているか分かりません。そのため、ただ彼らのそばにいることしかできなくて、自分たちが何をしたいのかわからなかったようでした。実際私自身も中国語が分からないので、そう思うのはよくわかります。しかし、私ができるのはアドバイスだけだったので、それがとてももどかしく感じました。ワークキャンプの中ではコミュニケーションが大切です。私とキャンパー、私と村人。コミュニケーションの方法は言葉だけでは



ありません。それをここでは知ることができます。キャンプ中盤になると、キャンパーみんながすべての村人や中国人キャンパーと関わっていこうと努力して、よいキャンプになったと思います。

私自身が心がけたことは、なるべく村人やキャンパーと一緒にいることです。それは、言葉を超えたコミュニケーションを助けると考えています。今回の村は下見のときに一度訪れていたもので、今回再訪したときに、村人が私のことを覚えていてくれて、名前を呼んでくれました。とても嬉しかったです。

私はワークキャンプは人と人とのつながりを強く感じることでできる良い機会だと思っています。この出来上がったつながりを保っていくために、どうしたらよいか自分なりに考えていこうと思います。

今回のキャンプ皆さんおつかれさまでした。

## 【しらべ】

「行動より言葉を」。JIA の「言葉より行動を」という意味を考えると「あれっ？」と思うかもしれない。でも、互いの母国語はもちろん、英語もあまり通じないキャンプでこう思った。始めは言葉が通じなくてイライラ。あきらめて、相手の考えを観察で読み取ったり、自分の考えを行動で示したりしようと思った。でもキャンプをするうち、行動に限界を感じた。通じようと通じまいと、言葉を発する事に意味があるんじゃないかと思うようになった。明らかに通じない日本語を交えながら話しかける日本人。中国語でガンガン話しかけてくる村人。これが不思議だけれど、続けているとすこしずつ仲良くなれる。意味が分からなくて困ることもあるけれど、何か伝えようとしてくれる事がすごくうれしい。そういうことが、もっと歩み寄りたいたいという気持ちにつながるのだと思った。下手な言葉でも body language でもいい。知りたい、伝えたいという気持ちを発し続けることが大事だと思った



## 【たかし】

何度キャンプに参加しても感じるのは、つながり。僕はこのワークキャンプという空間において、参加者の間にある何か境界のようなものを取っ払った上での関係を作ることができるのが、キャンプの魅力だと思っている。今回はその魅力を特に実感することとなった。

また、キャンプを企画する際にも中国人と協同といった点で考えさせられることも多かった。お互い生きてきた世界が違う中で、共に考えを共有し、理解し合う。今まで参加して



きたフィリピンとはまた違った面からキャンプというものを見ることができた。

しかし、中国キャンプもまだまだ多くの課題を残していると感じた。

国際キャンプであるため、良い点が多い反面、難しい部分も多い。

今回あがった多くの課題を念頭において、これから中国キャンプを担っていく人々に良いキャンプを作っていってほしいと願う。

## 【さわ】

チャイナキャンプの話を入学して間もないころに聞いた。村や村人の様子、キャンプ内容の話を知っていたのだが、そのときは、いまいちイメージが湧かなかった。そして、まさか自分がその年に行くことになるなんて思っていなかった。

ただ、自分がそこに行くことで幸せになる人がいるのならいいな、という気持ちでキャンプに行くことを決めた。でもいま振り返ってみると、本当は自分の意識は中途半端で、うまくいかないことの多さによく落ち込んでいたように思う。



でも、村人の一人が、私たちが村を離れる前日、「また来てくれる？」と聞いた。当たり前のように聞かれたその言葉はすごくうれしくて、来てよかったんだな、と思えた。

私は今回のキャンプではっきりした何かを達成できたとは思わない。でも確かに言えるのは、少し遠いところに大事な人がたくさんできたということだ。私は村人の言葉にこたえるために、また行きたいと思った。

## 【ぴっちゃん】

「自分の殻に閉じこもりたくなることもあると思うけど、積極的にコミュニケーションを図ってほしい。」キャンプ出発前に聞いたこの言葉が、キャンプの終わった今痛感されます。

怖いから、疲れたから、面倒くさいから・・・様々な理由でコミュニケーションを放棄してしまうことが私にはよくあります。しかし、それは凄くもったいないことだと思ようになりました。私が気まぐれで参加を決めた今回のキャンプで、奇跡的に出会えたたくさんの友達、否、家族。折角会えたのに仲良くなることを放棄してしまうのはもったいないと思うのです。そういう思いが芽生えてから、私は積極的に話しかけるように努めました。そしたら相手も、私の名前を呼んでくれたり笑顔を見せてくれたり・・・！それはとても幸せな瞬間でした。

私が積極的にコミュニケーションをとろうという心を持つことで、人とのつながりは広がり、毎日をもっと楽しくなる。少し気持ちを変えただけで、私の世界は大きく変化しました。この思いをこれから先、ずっと忘れずにいたいと思います。本当にありがとうございました。





## 【ももこ】

半分勢いで参加を決めた今回の中国キャンプ。正直行く前にはあまりキャンプの雰囲気がつかめなくてどうなるのか若干不安だった。村に到着したての最初の頃も、中国人キャンパーについて行き、おじいちゃん、おばあちゃん(村人)のそばにいるのが精いっぱい。でも、日にちが経つにつれて段々と距離を感じなくなってきた、一緒にご飯を食べたりゲームをしたりしているうちに、お互いに笑顔が見られるようになってきた。自分が笑っているときも、相手が笑っているときも、本当に楽しかったし何より嬉しかった。短い期間ではあるけれど、毎日多くの時間を一緒に過ごすからこそ、距離を近づけられたのだと思う。

また、キャンプに参加して感じたのが JIA の中国人キャンパーとの協力体制の重要性。事前に連絡を取り合うのが大変とか、お互い第二外国語でコミュニケーションをとる難しさとか、そういう過程こそが大事で乗り越えていくことに意味があるのだと感じた。

最後に、色々書いたけれど、今回このキャンプに参加することができて本当に良かったと思う！初めてのワークキャンプで戸惑うこともあったけど、それ以上に大きな経験ができた。サポートする側になるか作っていく主体になるかはわからないけど、次回は今回より更に素晴らしいキャンプにできたらいいなと思う。





フレンズ国際ワークキャンプ九州  
中国キャンプ  
Mail: [fiwcq@hotmail.com](mailto:fiwcq@hotmail.com)  
Blog: <http://fiwcqc.exblog.jp/>

